

Slovenia Monthly January 2024

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2024年2月21日



～1月の主なポイント～

内 政：医師・司法分野及び行政局職員のストライキ

クルシュコ原子力発電所2号機の建設に係る国民投票を本年中に実施

外 政：国連安保理非常任理事国の任期開始

政治

【内政】

●スロベニア、10年ユーロ債を発行【4日】

3日、財務省は、国際資本市場で新たに15億ユーロの10年債を発行した。債券の満期利回りは3.043%、価格は99.621ユーロ。金利スワップレートに対するスプレッド(金利差)は58ベースポイントだった。投資家の大半はファンドマネージャー(37%)で、中央銀行などの公的機関(20%)、銀行や国債(18%)、保険会社や年金基金(12%)、ベンチャーキャピタルファンド(9%)が続いた。

●チャルシッチ新農相の就任【4日、12日】

4日、ゴロブ首相は、自由運動党(GS)のマテヤ・チャルシッチ議員を農相に正式に指名した。彼女は国民議会農業委員会の副委員長を務める36歳で、農業・園芸学の学位を持つ。競争力のある農業部門と食品産業、そしてサプライチェーンの短縮と地域の自給自足を提唱している。

12日、国民議会はマテヤ・チャルシッチ氏を新農林・食料相に任命した。同相は食料安全保障と農家の状況を改善するための努力を約束した。

●裁判官・検察官のストライキ【4日、30日】

4日、憲法裁判所の判決に沿った昇給を実施しない政府に抗議し、裁判官と検察官が1時間にわたって業務を停止した。裁判官協会は、政府が行動を起こさないことは「権力の乱用」であると述べた。また、

1月10日から24日までストライキを決行し、ほとんどの訴訟事件や商業事件、多くの刑事事件の審理が裁判所でキャンセルされた。

30日、裁判官協会ではもはや業務は縮小しないと決定したが、裁判所での抗議集会を2月7日から毎月開催する予定であると述べた。検察当局は、1月31日に予定されているストライキを回避するため、月給を総額1,244ユーロ引き上げるよう政府に提案書を送付した。この金額は、地方検察官の最低給与と国会議員の最低給与の差額である。

●世論調査：政府への支持率低下が収束【8日】

メディアナ社による世論調査では、野党民主党(SDS)と与党自由運動(GS)の2大政党の支持率が上昇し、3か月続いていたGS及び政府への支持率の下落が止まった。中道右派の新たな中心人物となる可能性が高いロガル前外相は、人気政治家ランキングでトップの座を維持した。SDSの支持率は11月の21.7%と比べて0.9ポイント増加し、GSは現在14.6%で1.2ポイントの改善を記録している。

●医師のストライキ【8日】

9日、医師と歯科医師の労働組合フィデスは、2024年7月1日までの給与引き上げと医療部門の公務員給与の中での別枠化を要求しストライキを行った。プレヴォウニク＝ルペル保健大臣は、ストライキは不要で、すぐに合意に達することが可能だと述べ、1月15日から予定されているゼネストの中止を求めた。

15日、公共医療機関の医師が午前7時からストライキに入った。フィデスは、政府は医師を対等なパートナーとして受け止めるべきだと述べ、早急な変革を促した。

22日、フィデスの組合員である医師たちがストライキ活動を強化したため、公的医療システム全体で多くのサービスが影響を受けている。緊急でない処置のキャンセルが続く一方で、一部の医師は、労働時間、休憩、昼休みに関するすべての規定を厳守し、規則通りに働き始めた。

30日、進行中のストライキの一環として、医師の約半数が時間外労働の同意を撤回することを決定した。フィデスは、週に最長で48時間、一度に16時間以上働かないことを意味すると述べた。

●欧州議会選挙に向けた国内の動き【9日、20日、21日、30日】

9日、新スロベニア党(NSi)は、トニン党首とノヴァク元党首(現職欧州議会議員)が欧州議会選挙に出馬すると発表した。シングルクラリ議員、チャドニッチ=シュペリッチ議員、ヴルトヴェツ議員も出馬する。議会政党が立候補者を発表するのは初。

20日、年金引き上げを主な要求とする抗議集会から生まれた政党「年金受給者の声」が正式に発足した。発起人・初代代表である元民主党(SDS)議員のルパル氏は、同党が今年の欧州議会選挙に出馬すると述べ、年金受給者の生活を改善し、若者や労働者の社会条件を改善すると述べた。

21日、ノヴァ24TVの依頼でParsifal社が実施した欧州議会選挙に関する世論調査によると、野党民主党(SDS)が19.2%の支持を集め、連立与党の社会民主党(SD)が10.4%、最大与党の自由運動党(GS)が9%で続いた。野党新スロベニア(NSi)は6.4%で4位、連立与党の左派党が4.8%の支持を得た。同調査は21日にリリースされ、914人が回答している。

30日、コチェウイェ市のプレビリッチ市長は、欧州議会選挙への出馬を表明した。複数のパートナーと協力の可能性について協議しており、非議会の緑の小政党ヴェスナが最も有力な支援者である。同党は2022年大統領選挙で同市長を支援し、同市長は第1ラウンドで10%以上の票を獲得して予想を覆した。

●スロベニアの航空接続性補助金【11日】

11日、スペインのイベリア航空とノルウェーのLCCノルウェー航空は、それぞれリュブリャナとマドリッド、コペンハーゲン便で、スロベニアへ就航する航空会社に対する補助金を獲得することが決定した。

12日、インフラ省は、同補助金の第4回入札募集を開始した。同補助金は2023年から2025年の間に

1,680万ユーロの資金が確保され、すでに一部支出が行われている。

●太陽光発電容量が1GWを突破【17日】

環境・気候・エネルギー省は、2023年、太陽光発電の設置容量が1,101.5メガワット(MW)に達したと述べた。2022年末時点の697.7MWから400MW以上増加し、スロベニアはEU加盟国の中でも最も一人あたり太陽光発電容量の高い国のひとつとなった。また、2024年の太陽光エネルギーによる発電量は1テラワット時(TWh)を超える見込み。

●財務大臣が副首相に就任【23日】

ボシュトヤンチッチ財務相が、ファヨン外相、メセツ労働相に続く3人目の副首相に就任した。2023年7月に辞任したベシッチ=ロレダン前保健相のポストを埋めることをゴロブ首相が提案した。

●労働省、観光・接客業における外国人の季節労働を提案【23日】

労働省は、EU法を移管し、外国人の季節労働を観光業や飲食業に拡大することを可能にする、雇用・自営業・外国人労働法の改正案を提出した。この改正案は、人手不足のためこれまで農業と林業に限られていた季節労働を拡大するものである。また、関連するEU指令を反映し、高度専門職の最低契約期間を1年から6か月に短縮する。

●個人投資家向け債券を発行【24日】

ボシュトヤンチッチ財務大臣は、国内個人投資家向けに2月1日に満期3年、金利3.4%で2億5,000万ユーロ相当の債券を発行すると述べた。政府は、2023年の壊滅的な洪水の後、人民債と呼ばれる債券を発行することを決定した。購入できるのは、スロベニアの永住許可または一時滞在許可を持つ18歳以上の個人である。

●デジタル変革相の更迭動議【23日、29日】

ストイメノヴァ=ドゥフ=デジタル変革大臣は、同省が1万3,000台のノートパソコンを4社から650万ユーロ相当で購入したことで非難を浴び、野党民主党(SDS)は、同相に対する不信任決議案を提出した。ゴロブ首相は、同購入はデジタルインクルージョンに向けた最善の策であり、関係省庁が近く配布基準の草案を作成する予定であると述べた。

●欧州委員会、スロベニアに対する複数の違反手続きを開始【25日】

欧州委員会は、EU指令の移管が間に合わなかった加盟国に対し、20数件の侵害手続きを開始し、スロベニアはEUの排出権取引制度、合法的な移住、

自動車保険、ローンのサービスと購入に関する指令の履行を怠っていると述べた。

●行政局職員がストライキに突入【26日】

国内58の行政局のうち41ユニットの職員が、賃上げと増員を求めてストライキに入る。41のユニットのうち、26のユニットの事務員が29日から31日まで、残りのユニットは1日のみのストライキとなる。国家機関労働組合のヴェルク委員長は今週初め、行政部門は国家行政の中で最も給与の低いシステムであると述べた。キャリアをスタートさせたばかりの事務員の給与は、最低賃金を4段階も下回っている。

●シュヴァルツ＝ピパン法相の辞任予定【17日、29日、31日】

17日、野党民主党(SDS)は、複数の裁判所のための建物購入における不正疑惑の「客観的責任」のため、シュヴァルツ＝ピパン法務大臣に対する不信任動議を提出すると発表した。法務省はその老朽化した建物購入の際、独自に査定を依頼せず、売り主が提示した査定にそのまま従って過剰な価格を支払ったとされており、購入契約には大臣が署名している。購入価格は770万ユーロであったが、売り主は同建物を2019年に170万ユーロで購入していた。

29日、社会民主党(SD)は、裁判所のための建物の高額な購入を巡り、同法相に辞任を求めた。ファヨン党首(外相)は、法相は客観的な責任を理由に辞任することを期待していると述べた。

31日、同法相は、同省の職員と同大臣の政党であるSDの党員が違法な利益を得るために結託したと非難した。

(※2月5日、同法相はゴロブ首相に辞任を申し入れた。)

●クルシュコ原子力発電所2号機の建設に係る国民投票を本年中に実施【30日】

30日、ゴロブ首相は議会政党の党首、議員、ピルツ＝ムサル大統領、クラコチャル＝ズパンチッチ国民議会議長との会合を主催し、クルシュコ原子力発電所2号機の建設について本年中に国民投票を実施することが合意された。5つの議会政党が質問を作成し、本年中に国民投票にかける。ゴロブ首相は、国民投票の正確な日程はまだ未定で、「今のところ、本年の後半になりそうだが、最終的な日程はまだ決まっていない」と付け加えた。ゴロブ首相は、投資に関する決定は、投資額と新型原子炉の出力が判明する予定である2027年か2028年に下されることになっていると述べ、その時にプロジェクトに関する国民投票が別途行われる可能性を示唆した。プロジェクトの費用は100億ユーロと見積もられている。クルシュコ原発のスロベニア側半分を所有するGENエネルギー社

は、すでにこのプロジェクトのサプライヤー候補との協議を開始している。同社は、効果的な立地手続きの準備を進めており、立地に関する耐震調査や、最大2,400メガワットの2号機から電力網への接続に関する調査などが完了しつつある。

ドネウニク紙の最近の世論調査では、回答者の69%が2号機の建設を支持しており、過半数が発電への原子力利用に賛成している。

●IMF、スロベニアの金融システムは強靱性があるが改革が必要【30日】

国際通貨基金(IMF)のミッションは、スロベニアの金融システムは増加する課題に直面して弾力的であるが、構造改革が必要であると、年次協議の一環として評価した。同ミッションの代表は、スロベニアが域内の紛争や不安定な原材料価格、相手国の期待以下の成長などの影響を受けていることを指摘し、「他の国と同様、リスクは依然として高い」と述べた。スロベニア中銀はIMFミッションとほぼ同意見で、「スロベニアは現在、比較的良好な状態にある」との見積もりを共有している。

●スロベニア、腐敗認識指数で順位を落とす【30日】

トランスペアレンシー・インターナショナル(TI)スロベニアによると、スロベニアは2023年の腐敗認識指数(CPI)で100点満点中56点を獲得し、2022年に比べて順位を1つ下げ、42位となった。スロベニアはEU平均の64ポイントに遅れをとり、TIスロベニアは、汚職防止への取り組みが不十分であることが示され、この結果には驚いていないと述べた。汚職防止委員会は、スロベニアは汚職との闘いにおいて何年も停滞しているというより悪化していると指摘した。

●ハチミツの表示明確化を歓迎【31日】

チャルシッチ農業相は、スロベニアが主導した蜂蜜の混合表示の明確化に関する欧州委員会の提案について、EU理事会と欧州議会が合意に達したことを歓迎した。同大臣は、「この改正は養蜂セクターと消費者の双方にとって重要であり、消費者は蜂蜜の原産地について透明性のある情報を得る必要がある」と述べた。

【外政・EU・防衛等】

●国連安保理非常任理事国の任期2年が開始【1日】

スロベニアは、2025年12月31日までの2年間、国連安全保障理事会の非常任理事国として、世界の平和と安全保障に関する意思決定に参加することを正式に表明した。ファヨン外相は、これは大きなチャンスであると同時に、現在の世界情勢は厳しく複雑であるため責任も重大であると述べた。ゴロブ首相は、スロベニアはその小さな国土が、バランスの取れた解決策を確保する努力において優位に立つと主張し、スロベニアは理事会の積極的なメンバーになると述べた。

●ファヨン外相の訪仏【8日】

8日、ファヨン外相はフランスを訪問し、コロナ外相と会談した。二国間協力が焦点となり、両国は政治、経済、科学、文化における二国間協力を更に強化するための協力行動計画に署名した。ファヨン外相はコマンOECD事務総長やアズレ・ユネスコ事務局長とも会談した。

●ウクライナでの北朝鮮製ミサイルの使用を非難【10日】

9日、スロベニアは、約50か国のグループと共に、ロシアに売却された北朝鮮のミサイルが12月30日と1月2日にウクライナに対して使用されたことを非難した。この声明には、米国、英国、いくつかのEU加盟国、EUなどが署名した。

●スロベニア、クロアチア、イタリア、移民問題での協力【16日】

ポクルカル内相、ボジノヴィッチ・クロアチア内相及びピアンテドージ・イタリア内相は、クロアチアのズェトで会談を行い、各国が移民問題への対応でうまく協力していることを評価した。以前に合意された混合パトロールは現在調整段階で、次回会合は3月にスロベニアのブルド・プリ・クラニューで開催される予定。

●スロベニア、ドイツの地对空ミサイルシステムを購入【12日】

国防相は、スロベニアは(※昨年12月に締結したプログラム協定に基づき、)ドイツのディール社をIRIS-T中距離防空システムのサプライヤーに選ぶことを決定し、同社はIRIS-T地对空ミサイルシステム1基を納入すると発表した。すべてのサポートとミサイルを含む価格は1億4,682万ユーロ。同システムは、射程距離最大40キロの地对空ミサイルで、高度2万メートルまでの標的を攻撃できる。

●キプロス外相のスロベニア訪問【12日】

コンボス・キプロス外相はスロベニアを訪問し、ファヨン外相と会談を行った。ファヨン外相は、スロベニアはキプロスにおける国連平和維持ミッションの延長を支持し、最大15人の兵力を提供する意向であると述べた。二国間協力については、キプロス航空がスロベニアとの航空路線を確立するための協定の可能性についても言及した。

●国連コロンビア・ミッションを支持【12日】

国連安保理はコロンビア情勢を討議し、スロベニアのジュボガル特使は、コロンビア政府と反政府勢力との和平合意を検証する国連ミッションの活動に対するスロベニアの支持を表明した。同特使は、コロンビア政府とコロンビア革命軍(FARC-EP)との最終和平合意調印から7年が経過した現在も、その履行が優先課題であると述べた。

●ファヨン外相、中東地域の情勢エスカレートに警告【12日】

米英軍がイエメンのフーシ支配地域の複数の標的に対する攻撃を開始したことを受け、ファヨン外相は、同地域情勢のエスカレートに警告を発した。ファヨン外相は、今回の攻撃は中東情勢をさらに複雑にしかねない新たな力学を地域にもたらしたと述べ、また、国際海上輸送に対するフーシ派の攻撃を非難し、これは間接的にスロベニア唯一の海港コペル港にも影響を与えていると述べた。

●ピルツ＝ムサル大統領のドイツ訪問【15日】

ピルツ＝ムサル大統領とシュタインマイヤー・ドイツ大統領はベルリンで会談し、両国間の経済協力が焦点を当てるとともに、中東情勢についても意見交換を行った。ピルツ＝ムサル大統領は、「ガザの状況は、犯罪と市民殺害の即時停止を要求している」と述べた。また、同大統領は、スロベニアとドイツの良好な関係を強調し、経済協力の重要性を強調した。ピルツ＝ムサル大統領は、グリーン移行における両国経済協力の将来についてのビジネス会議のメインスピーカーを務め、グリーン移行は協力のための多くの機会を与えるだろうと述べた。

●ウクライナ人への一時保護延長【18日】

政府はスロベニア在住のウクライナ人に対する一時保護を2025年3月4日までさらに1年延長した。2022年2月の戦争開始以来、数千人のウクライナ人がスロベニアに避難しており、一時保護により彼らに一時滞在許可、労働市場へのアクセス、住居、教育、社会的ケア、医療が与えられる。

●ポクルカル内相のオーストリア訪問【24日】

ポクルカル内務大臣は、オーストリアのカルナー内務大臣と非公式会談を行い、移民問題とシェンゲン域内の国境管理について議論した。両大臣は二国間関係が良好であることに同意し、これに関連してEU近隣諸国の状況についても議論した。

●大統領、ゼレンスキー大統領と会談【25日】

ピルツ＝ムサル大統領は、国連安保理非常任理事国の任期開始を踏まえ、ウクライナのゼレンスキー大統領と電話会談を行った。両者はウクライナへの人道的・軍事的援助と戦後復興について議論し、ピルツ＝ムサル大統領は、スロベニアはウクライナの恒久的かつ公正な平和のために努力を続け、来る開戦2年の平和サミットを支持していると述べた。

●EU拡大に関するより効果的な意思決定を提案【29日】

スロベニア、ドイツおよび他の6か国は、EU総務理事会で、EU拡大に関するより効果的な意思決定に向けた取り組みを提示した。シュトゥチン外務副大臣は、加盟交渉における決定にはもはや全会一致ではなく、特定多数決方式を用いるべきだとした。同副大臣は、スロベニアはロシアのウクライナ侵略によってもたらされた地政学的な勢いを利用して、EU拡大プロセスも加速したいと考えており、議論の結果、この提案が複数の加盟国の支持を得ていることが示されたと付け加えた。

●中国人民政治協商会議全国委員会の王副主席等のスロベニア訪問【30日】

中国人民政治協商会議全国委員会の王勇副主席を団長とする代表団がスロベニアを訪問した。王副主席は、ビジネスと社会問題の両方において、両国間のコミュニケーションを向上させることの重要性について語り、中国のプラットフォームを介したスロベニア製品のプロモーションの可能性を指摘した。ゴロブ首相は、スロベニアの経済発展はEUの平均を上回っていると述べ、ハイテク産業と外国からの投資を奨励したいと付け加えた。

スロベニア商工会議所(GZS)主催のイベントでは、マイェリッチGZS戦略開発・国際化ディレクターは、対中輸出を増加させるための最良の機会は、ハイテク消費財、先端技術、グリーンソリューションであると述べた。スロベニア・中国ビジネス協議会のヴァウポティッチ代表は、4月にファヨン外相とともにハイレベルビジネス代表団が中国を訪れることから、2024年は両国関係にとって特に重要な年になるだろうと述べた。

スロベニア郵便のツェグナルCEOは中国郵便のLiu Aili会長と会談し、また、中国代表団には、Mial Wei前

産業・IT部長(大臣)、Wang Bingnan前商務部副部長(副大臣)、世界最大の鉄道車両メーカー中国中車(CRRC)のSun Yongcai会長兼CEOも参加した。

【イスラエルのガザ侵攻関係】

●スロベニア、イスラエル閣僚によるパレスチナ人のガザ以外への再定住要求を拒否【3日】

外務・欧州省は、スロベニアは、イスラエル政府によるガザからのパレスチナ人の集団移住を提案する最近の発言を拒否すると述べた。ガザからパレスチナ人を強制移住させることは、国際法に反し、二国家解決への展望をさらに危険にさらすものであるとし、スロベニアは、国際法と国際人道法を尊重し、ガザの民間人を保護することを改めて求めた。

●左派党、イスラエル大使館のハマス攻撃上映会への招待を非難【10日、11日】

左派党は、イスラエル大使館がスロベニア・イスラエル友好議員連盟のメンバーを、ハマスがイスラエルを攻撃した際の映像上映会に招待したことを非難した。上映会はリュブリャナのユダヤ人センターで開催される予定だったが、同センターは脅迫の標的となりイベントは中止された。

11日、首相府は、左派党がイスラエル大使召喚を要求したのに対し、イスラエル大使館の行為はスロベニアへの内政干渉には当たらないと述べた。ヴォウク副大臣は「パレスチナ人コミュニティからの招待にも同じルールが適用される」と述べ、いかなる側も排除したり対話を拒否したりしないよう警告した。また、ファヨン外相も、映画上映は外交団が許可される活動に該当しており召喚の理由はないとして左派党の呼びかけを拒否した。

●ファヨン外相、イスラエルは国際法に違反と発言【11日】

9日、ファヨン外相はCNNのインタビューで、イスラエルのガザ攻撃は国際人道法に違反していると述べた。ファヨン外相はパレスチナ民間人の犠牲者数が多すぎると述べ、持続可能な停戦と二国家解決を求めた。10日、これに対しイスラエルはこの主張を否定し、ガザ地区のすべての民間人の死傷者はハマスに責任があると述べた。

17日、ファヨン外相は、ダボスで開催された世界経済フォーラムで、ガザでの戦争を終結させ、その市民を保護することの緊急性を強調した。ファヨン外相はまた、ガザ地区への人道的援助を呼びかけ、二国家解決に向けた和平プランの合意を呼びかけた。

●ファヨン外相、国連安保理討論会でガザでの即時停戦を要求【23日】

23日、ファヨン外相は、ニューヨークにおける中東に関する国連安全保障理事会の公開討論の中で、ガザ地区でのイスラエルとハマスの戦闘は即時停止されるべきだと述べた。同大臣は、ガザで殺害された市民の大多数は女性と子供であると指摘した。

●イスラエルに対するICJ訴訟【26日】

26日、外務・欧州省は、南アフリカのイスラエルに対する訴訟について同日ICJが下した暫定措置命令を歓迎した。同命令には、イスラエルはガザ地区の民間人への緊急人道支援を可能にし、ガザ地区での大量虐殺を防止するための効果的措置を講じなければならないとの内容が含まれている。

●イスラエルへの武器輸出の却下【26日】

26日、国防省は、スロベニアがイスラエルへの武器輸出の許可を却下したとのムラディナ誌による報道を肯定した。スロベニア企業は、国防法に基づき、輸出許可を却下された。同法は、武器のエンドユーザーである国において紛争を起こしたりエスカレートさせる場合には輸出を禁じることができると定めている。外務・欧州省は、同報道について否定も肯定もせず、武器輸出許可に関する決定は国防省が外務・欧州省を含む関係省庁と協議して行うと説明した。

経済・統計

●2023年1－11月の輸出4.8%増、輸入1.8%増【4日】

昨年1－11月期の輸出額は前年同期比4.8%増の509億ユーロ、輸入額は同1.8%増の530億ユーロ、輸出入比率は96.2%となった。11月の輸出入は年間レベルで増加したが、EU加盟国以外との貿易の増加によるもので、EU諸国との貿易は約10%減少した。

●鉄道の年間乗客数が1,500万人に到達【8日】

スロベニア鉄道の乗客数は2021年から増加しており、2023年には1,500万人以上に達した。スロベニア鉄道は、これは新型コロナウイルス感染症による規制緩和と、新しい列車と有利な鉄道旅行オフーのおかげであるとし、2028年までに乗客数を2,500万人に増やすことを計画している。

●2023年12月は過去最も温暖【9日】

環境庁(ARSO)によると、昨年12月は1950年以降で最も暖かかった。降水量は例年より多かったが、気温が高かったため雪は数センチしか降らず数日で溶け、日照時間も平均より長かった。気温は平均(1991年～2020年)を2.9度上回った。

●リュブリャナ空港の旅客輸送60周年【9日】

運営会社のフラポート・スロベニアは、リュブリャナ空港は本年、旅客輸送が開始されてから60周年を迎え、これまで4,770万人の旅客が利用したと発表した。今後数ヶ月、空港では様々な祝賀イベントが開催される。旅客輸送が開始された1964年の利用旅客数は78,000人で、2023年には127万人まで増加した。

●FURS、2023年の徴税額は前年比7%増【10日】

金融管理局(FURS)は昨年、225億ユーロの税金を徴収し、2022年より15億ユーロ(7%)、2021年より33億ユーロ(17.2%)増加した。FURSによると、徴収額は過去6年間で最高であり、税金債務は引き続き縮小している。収入の大部分を占め、そのほとんどが年金・障害者保険基金(ZPIZ)と公的医療保険基金(ZZZS)に充てられ、社会保険料は、8.7%増の92億ユーロとなった。

●11月の工業生産高は減少【10日】

スロベニアの11月の工業生産高は、前月比3.7%増となったものの、前年同月比0.8%減となった。電気・蒸気・ガス供給部門は23.4%減、製造部門は0.4%減となった。鉱業は14.3%増加した。売

上高は、製造業で4.3%増、鉱業で4.4%増となったものの、0.1%減と縮小ペースは鈍化した。

●ルカ・コペル、新貨物ターミナルをオープン【10日】

コペル港の管理会社ルカ・コペル社は、港のセルミン地区にローリーターミナルを開設した。今年初めから稼働しているこの新ターミナルには203の駐車場があり、建設費は1,300万ユーロ。クルジャン・ルカコペル社会長は、EUの共同出資によるこの改修は重要なマイルストーンであると述べた。

●ルノー・オーストラル、2024年のスロベニア・カー・オブ・ザ・イヤーを受賞【14日】

スロベニア自動車・オートバイ協会(AMZS)は、ルノー社のオーストラルを2024年スロベニア・カー・オブ・ザ・イヤーに選んだ。2位はヒョンデ社のコナ、3位はトヨタ社のCH-R。最終選考には、ジェップ社のアベンジャーとMG 4 EVも残った。最終選考は27,000人以上の投票によって行われた。

●自動車販売台数は約6%増、電気自動車の販売台数は約40%増【15日】

昨年スロベニアで新規登録された乗用車は合計4万8,923台で、2022年より5.6%増加し、バンは7,686台で7.7%増加した。スロベニアで新車販売された電気自動車は12,584台に達し、年間38.6%増加した。メーカー別では、フォルクスワーゲンが昨年スロベニアで最も多くの新車を販売し、シュコダとルノーがそれに続いた。

●2023年、暗号投資詐欺が過去最多に【15日】

SI-CERT国家サイバーセキュリティ対応センターが昨年対応した偽の暗号通貨投資詐欺は約150件とこれまでで最多となった。暗号通貨投資詐欺における最大の被害額は140,000ユーロで、平均は40,000ユーロだった。サイバーインシデント全体の件数は、2021年の2,775件から2022年にはすでに4,123件に急増していたが、4%増の4,280件となった。

●リュブリャナ新駅改築への入札【20日】

リュブリャナ中央駅改築の主要部分について、2件の入札が行われ、いずれも予定価格を大幅に上回った。この公的資金によるプロジェクトは、20年以上前から計画され、最終評価額は10億ユーロであったリュブリャナ旅客センターの一部である。2件のうち、より低い入札額を提示したのは、自社ビルダー(国鉄の自社建築部門)のSŽ、建設会社コレクトール等からなるジョイントベンチャーであった。

●雇用の見通しは引き続きポジティブだが、2023年よりは低下【19日】

雇用会社マンパワーによる調査で、スロベニアの雇用者の約56%が今年上半期に賃上げを予定しており、46%が労働力の拡大を見込んでいることが明らかになった。一方、上半期の純雇用予測は昨年より+54.49%を大幅に下回り、+42.41%となっている。雇用に関して最も楽観的なのは、運輸・物流、医療・製薬、銀行・金融・保険部門の雇用主である。

●11月の平均給与総額は10%増【22日】

11月のスロベニアの平均給与総額は2,427.10ユーロに達し、10月より名目ベースで9.8%、実質ベースで10.9%増加した。平均純給与は1,594.13ユーロに達し、10月を名目ベースで11.1%、実質ベースで12.2%上回った。2022年11月と比較すると、平均総支給額は名目で8.1%、実質で3.1%増加した。純賃金は名目で7.7%、実質で2.7%増加した。

●最低賃金4.2%引き上げ、1,254ユーロに【23日】

メセツ労働相は、今年の最低賃金が4.2%引き上げられ、1,253.90ユーロになると発表した。この引き上げは、2023年末に記録された年間インフレ率にのみ最低賃金を調整するもので、法律上必要とされる最低限の指数化である。

●製薬グループ・クルカ社、2023年売上高は過去最高【25日】

製薬グループ・クルカの昨年の売上高は、前年比5%増の18億1,000万ユーロとなり、過去最高を記録したことが、未監査の暫定決算で明らかになった。純利益は為替差損により前年比14%減の3億1,120万ユーロ(推定)となった。コラリッチCEOは「インフレ圧力にもかかわらず、営業利益(EBIT)はこれまでで最高となり、前年比4%増の3億9,760万ユーロとなった」と語った。2024年の売上高は18億5,000万ユーロ、純利益は3億1,000万ユーロを超えると予想されている。

●ゲン社、売上高29%減にもかかわらず昨年の純利益は9倍増【25日】

エネルギーグループ・ゲンの昨年の売上高は29億7,000万ユーロで、2022年に比べ28.9%減少したが、純利益は大幅に増加し、2022年の2,360万ユーロに対し、2億4,450万ユーロに達した。パラヴァン事務局長は、特に昨年初頭の比較的高い電力料金が影響したと語った。高い水位が同社の事業に好影響を与え、2022年比で水力発電量を70%増加させることができた。同グループの昨年の発電量は3,

433GWhで、スロベニアの消費量の28%を占めた。

●2023年の観光客数は過去最高【25日】

スロベニアは2023年、約620万人の観光客入国数と1,610万人の観光客宿泊数を記録し、それぞれ前年比5.5%、3.5%増加し、新記録を達成した。観光客宿泊数は、これまでの最高記録であった2019年と比較して2%増、全体の28%にあたる約460万泊がスロベニア人、72%にあたる1,150万泊が外国人宿泊客であった。スロベニア人の宿泊数は前年より17%減少した一方、外国人観光客の宿泊数は15%増加した。2019年との比較では、スロベニア人による観光客の宿泊数は4%増加、外国人による宿泊数は2%増加した。

●大気汚染は依然として懸念事項【27日】

スロベニアではここ数十年で大気の質が改善されたが、2022年に再び有害汚染粒子であるPM10の1日あたりの数値が規定を上回った。環境庁によると、スロベニアは世界保健機関(WHO)が推奨する大気の質には程遠く、固形燃料による暖房が大きな原因であり、大気の質に関する現行のEU指令に違反していると述べた。

●2023年の小売売上高は11.5%減少【29日】

2023年のスロベニアの小売売上高は、実質で前年比11.5%減少した。自動車用燃料の売上高が22%減少し、最も大きく減少した。売上高は、非食品小売業では5%減少し、食品小売業は2.9%減少した。2023年12月の小売売上高は11月比3.6%減となり、4か月続いた上昇傾向に終止符が打たれた。

●12月の失業率は4.2%にとどまる【31日】

2023年12月の調査失業率は、前年同月比0.7ポイント上昇しながらも、月次レベルでは4.2%と横ばいであった。

●一般政府赤字、GDP比3.6%に拡大【31日】

スロベニアの2023年の一般政府赤字は、エネルギー補助金と洪水後の復興への支出の増加により、前年の2.8%から3.6%に拡大した。国家予算、地方予算、公的年金保険、公的医療保険の一般政府4部門すべての連結歳入は、7.4%増の250億ユーロとなった。一方、支出は9.7%増の273億ユーロで、23億ユーロの赤字のほぼ全額が財政赤字によるものだった。

治安・事件事故

●リュブリャナ・ヴィッチ地区で強盗事件【8日】

8日夕方、リュブリャナのヴィッチ地区で二人組の男が男性に近寄り、携帯電話と財布を強引に奪って逃走した。被害者の男性は負傷した。

●喧嘩に銃器を使用し2人が負傷【8日】

8日深夜、リュブリャナのモステ地区で2人の男が喧嘩し、うち1人が銃器を使用して2人とも負傷した。一人は軽傷、もう一人は重傷を負ったが命に別状はないとされている。

●クロアチア経由の不法入国、2023年に84%増加【11日】

クロアチアとの国境を経由してスロベニアに入国した不法入国者の数は、全体の96%を占め、2023年には前年比84%増となる58,193人を超えた。昨年シェンゲン国境が移動し、スロベニアではアフガニスタンからの不法移民が3倍の18,000人近くに増え、不法入国したモロッコ人は300人から8,800人以上に増えている。

●反ログ抗議デモが警察と衝突【19日】

19日夕方、リュブリャナの旧自転車工場ログから立ち退きを命じられた独立コミュニティのメンバーや支持者約100人が、旧ログセンター取り壊し3周年の抗議集会を開催し、警察と衝突し、約22,000ユーロ相当の物的損害をもたらした。

●ナイフを所持した男が現金を要求【25日】

25日、マリボル警察は通報を3件受理し、内2件では、血まみれのマスクを着用し、鋭利な物を所持した男が一軒一軒家を訪問して金銭を要求した。3件目では男が未成年者に近寄ったとされ、警察は男の行方を突き止め、マスクと模造ナイフを押収した。

社会・文化・スポーツ

【スポーツ】

●スキージャンプのラニシェック選手がガルミッシュ・パルテンキルヒェンの4ヒルで優勝【1日】

スロベニア出身のスキージャンプのラニシェック選手が、ドイツのガルミッシュ・パルテンキルヒェンで開催されたスキージャンプ・ワールドカップで優勝した。2022/23シーズンのベストジャンパー第3位であるラニシェックは、2度の優勝を誇る日本の小林陵侑を下した。

●スキージャンプのスロベニアチームがワールドカップ ビスワ2024で優勝【13日】

スロベニアのスキージャンプ、コス選手とラニシェック選手は、スーパーチーム種目で優勝を飾った。オーストリアチーム、ドイツチームをそれぞれ下し、日本は5位だった。

●NBAドンチッチ選手、NBA通算10,000得点【26日】

スロベニア出身でNBAダラス・マーベリックス所属のルカ・ドンチッチが25日に行われたフェニックス・サンズとのアウェイゲームで50得点し、史上6番目の若さでキャリア通算1万得点を達成した。

●スポーツ・クライマーのガーンブレットがスペイン紙『マルカ』のトップ10入り【31日】

スロベニア出身でスポーツクライミング界を代表するガーンブレット選手が、スペインのスポーツ紙『マルカ』の2023年ベスト女性アスリートランキングで9位に入った。同選手はオリンピックで金メダルを獲得し、その他にも数々の主要な賞を獲得し、「スロベニアに才能があることの証明である」とコメントした。

【科学技術、その他】

●国立現代史博物館でサラエボ五輪におけるスロベニア人の役割について展示【8日】

国立現代史博物館は、サラエボ・オリンピック40周年とそこでスロベニア人が果たした役割を祝う展覧会を開催する。また、スロベニアの歴史における重要な瞬間をカメラに収めたフォトジャーナリスト、シグリッチの生誕100年を記念した展示も行われる。その他にも、第二次世界大戦中のユダヤ人女性を紹介する展示や、スロベニアにおけるLGBT運動40周年を記念した展示も予定されている。

●スロベニアの研究者がシャボン玉をレーザーに変える【9日】

ヨジエフ・ステファン研究所の物性物理学部門の研究者たちは、シャボン玉が色調調節可能なレーザー光を発生する性質を持つことを明らかにし、大気圧の測定や電界の変化を検出する高感度センサーとして機能するレーザーを作り出した。この研究は、科学雑誌『Physical Review X』に掲載された。

●メラニア・トランプ前米大統領夫人の母親が死去【10日】

メラニア・トランプ前米大統領夫人の母親アマリヤ・クナウス氏が78歳で死去した。スロベニア出身のメラニア夫人はXで「深い悲しみ」を表明した。

●4番目の人工衛星が打ち上げ予定【27日】

マリボル電気工学・コンピューターサイエンス学部の研究者とSkyLabs社は、新しい超小型衛星を設計し、すでに地球を周回している2機のTrisat衛星に加え、今年打ち上げ予定である。この衛星は、スロベニアから宇宙に送られる4番目の衛星となる。ドイツのSpectrumロケットによるTRISAT-S衛星の打ち上げは今年の第1四半期に予定されているが、正確な日程は未定である。

●スロベニア、航空宇宙用エネルギー供給システム開発プロジェクトに参加【30日】

スロベニアは、水素燃料電池に基づく航空宇宙用エネルギー供給システム開発プロジェクトの国際コンソーシアムの初会合を開催した。スロベニア、ドイツ、ポーランド、ギリシャ、エストニアの企業や機関が参加する。経済省は、欧州宇宙機関の一般支援技術プログラムから資金提供されると述べた。コンソーシアムは、宇宙・エネルギー分野への技術応用を開発するプレオネ・エナジー社が率いる。スロベニアからは、リュブリャナ機械工学部と電気モーターメーカーのDomel社が参加している。その他、エネルギー生産用の高品質で持続可能な製品を開発するエストニアのPo

werUP Fuel Cells社、宇宙、自動車、航空産業、オートメーション分野で活躍するポーランドのArobs Polska社、ギリシャ最大の研究センターのひとつであるFORTH社が参加している。

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282 Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

【領事班からのお知らせ】

●証明のオンライン申請及びクレジットカードによるオンライン決済の開始について

令和6年(2024年)1月29日から、各種証明(一部を除く)のオンライン申請及びこれらの手数料のクレジットカードによるオンライン決済が可能となります。これまでは、平日の昼間に窓口に来館されて申請を行っていただく必要がございましたが、同日以降は、夜間、休日問わずオンラインで申請いただけますので、是非ご利用ください。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

当館 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00834.html

●パスポートのオンライン申請と申請手続きの一部変更

3月27日(月)からパスポートの手続きの一部がオンラインで申請可能となっています。オンライン申請に際しては、在留届が「電子届出化」されている必要があります。また、3月27日から、パスポートの申請に必要な書類などが一部変更されています。詳しくは以下のリンク先をご確認ください。

当館 HP: https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00740.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。また、住所・連絡先の変更、同居家族の追加など、提出済み在留届の記載事項に変更が生じた場合は「変更届」を、帰国や当館管轄地域外へ転出する場合は「帰国・転出届」を必ずご提出ください。

特に、当館からの重要な連絡が確実に皆様が届くよう、Eメールアドレスや携帯電話番号の変更は速やかに届出をお願いいたします。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票できる制度を「在外選挙制度」といい、これによる投票を「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、在外選挙人証を持っている人です。在外選挙人証の申請から受け取りまでには通常2か月程度の期間を要しますので、早めの申請を行ってください。

●当地での在留許可取得や在留許可延長手続きの際に必要な警察(犯罪経歴)証明については、申請から交付までに通常約2か月かかります。お手続きに必要な期間をあらかじめ考慮の上、余裕を持って申請を行っていただくようお願いいたします。

●ところがモヤモヤしたり、ざわついたるときは、相談してみませんか?

外務省は、特定非営利活動法人と連携して海外在住日本人の孤独・孤立対策の支援を行っています。海外にいても、SNSやチャットを使って日本語で相談できます。相談は無料です。

【外務省HP:孤独・孤立及びそれに付随する問題でお悩みの方へ】

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することができます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

【広報文化班からのお知らせ】

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版（英語音声）を配信しております。

[Embassy of Japan in Slovenia – YouTube](#)

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>